



# 銚子の自然災害 —過去・現在・未来—

千葉科学大学  
危機管理学部  
藤本 一雄

# 本日の話題

1. 銚子の「過去」の自然災害
2. 銚子の「現在」の自然災害
3. 銚子の「将来」の自然災害

# 1. 銚子の「過去」の自然災害

- 1102年 大津波？ → 銚子大神幸祭 ※青字:津波
- 1677年 延宝地震<sup>M8.0</sup>
- 1703年 元禄地震<sup>M8.2</sup>
- 1854年 (安政南海地震)<sup>M8.4</sup>
- 1910年 二月遭難(爆弾低気圧)
- 1960年 千刈地震<sup>M8.8</sup>
- 1971年 昭和46年台風25号(土砂災害、浸水害)
- 2011年 東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)<sup>M9.0</sup>

# 銚子大神幸祭

- 康和4年(1102年)、銚子高神の高見の浦一帯で大津波が起こり、この大規模な東国の天変地異の様相が海神の怒りとなって遠く京都まで恐慌を伝えていた。
- そこで、堀河天皇は、この災害を鎮めるために勅命を発し、銚子への御神幸祭を始められた。この神幸祭は、1110年(第9回)までは毎年行われていたが、その後は20年に一度行われ、現在まで約900年も続いている(最近は2010年、次回は2030年の予定)。



# 渡海神社

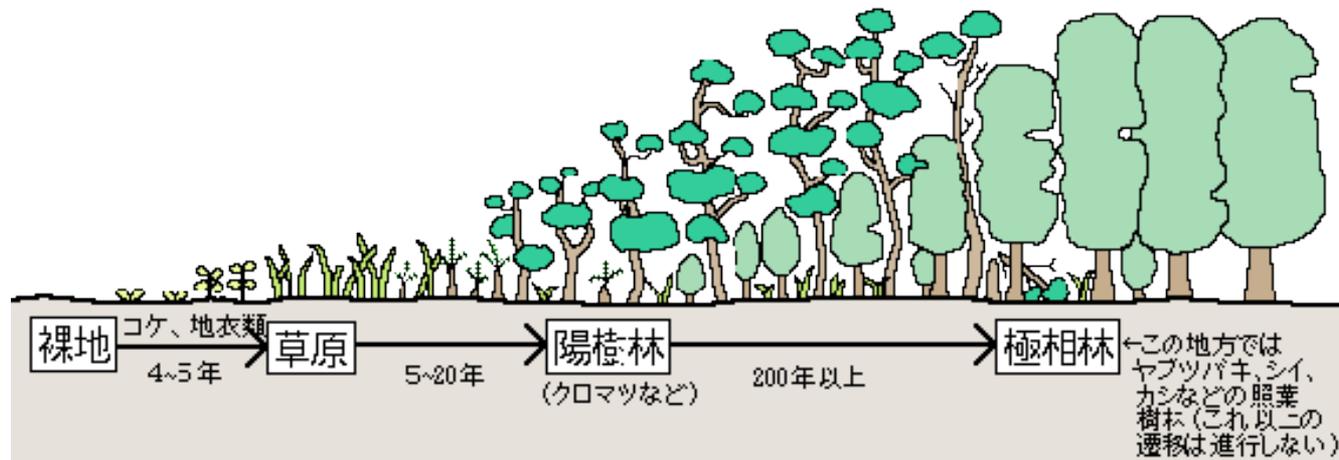
例) 上山八幡宮(宮城県南三陸町)

当初は高台にあったが、1800年頃、標高1mの場所に移る。1960年のチリ地震津波で被災し、現在の高台(標高19m)に移転。2011年の東日本大震災では被災せず。(磯田道史『天災から日本史を読みなおす』より)

- 709年に東海鎮護と銚子半島の鎮めとして、外川浦日和に創建されたが、その後、津波で被害を受けたため、976年に現在の場所に移ったと言われる(→ 高台移転)
- 「今回(東日本大震災)の津波で、神社仏閣が被災を免れたのは、長い歴史の中で多くの犠牲を払いながら、試行錯誤を重ねてきた証だったのです。」(土屋信行『首都水没』より)

# 極相林

- 渡海神社境内の森は「**極相林**」と呼ばれる
- 裸地が極相林になるには**数百年から千年を要する**と言われており、県内でも少なく、千葉県**の天然記念物**に指定されている



# 1677年延宝地震(M8.0) →津波地震

- 磐城(宮城・福島)から房総にかけて津波襲来。房総(千葉県)で倒家223余、溺死246余。
- 銚子市では、“夜四ツ時(22時頃)、津浪、笠上・飯沼に人畜の死傷を出し、千人塚の側に大池が出現。又高神村大池に大浪打揚げ樹木の倒れるもの一万余、外川・長崎の漁船・民家、大被害を蒙り、人畜の死傷多し。”(『銚子市史』より)



# 1703年元禄地震 (M7.9~8.2)

- **津波**が犬吠埼から下田に至る海岸を襲った。**房総(千葉県)**の死者は**6,534人**(津波で**2,000人以上**)。
- 旧飯岡町(現旭市)での死者は、三ヶ浜(下永井浜、飯岡浜、平松行内浜)で70余人。旧蓮沼村(現山武市)では、死者102人以上。旧成東町(現山武市)での死者は、松ヶ谷で84人、本須賀で96人。



# 濱口梧陵

- ヤマサ醤油(本社:銚子市、創業:1645年)の第7代当主(1820~1885年) ※広村(和歌山)、江戸(東京)、銚子(千葉)を行き来する
- 1854年(安政元):安政南海地震(旧暦11月5日)の際、広村での津波避難の逸話「稲むらの火」→広村堤防の建設
- 1858年(安政5):銚子でのコレラ防疫(江戸で死者10万人との説あり)

「安政の江戸にだけは住みたくないなあ。地震だけでなく、コレラがはやるわ火事は多いわ。外国船はやって来るし。」(宮部みゆき、2014)

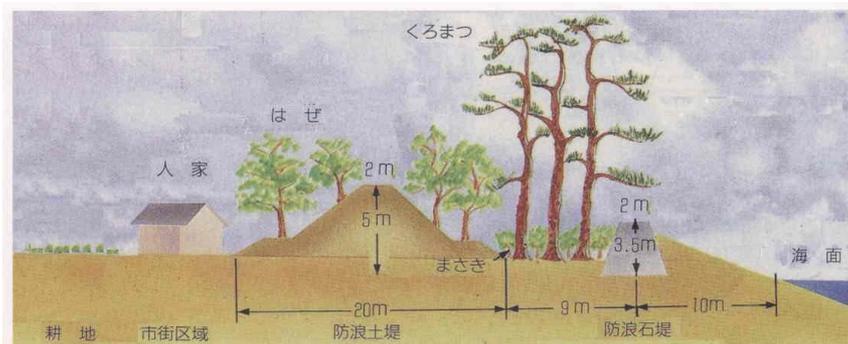


提供: 広川町教育委員会



# 広村堤防

- 津波から村民を守るため、また、**家・仕事を失った村民を雇用する**ため、私費を投じて、堤防（高さ5m、長さ600m）を建設 → 1946年の昭和南海地震の津波を防ぐ
- **銚子本店**（ヤマサ醤油）から広村に、**合計2,000両**（約4億円）を送金 ※1855年（安政2）の安政江戸地震により、江戸の店が大打撃を受ける



広村堤防横断面図（北側から南向きに見た場合。海までの距離は埋め立て前）  
海側から（右から左に向かって）、18世初頭に富山氏が築いた波除石垣（防浪石堤）、浜口梧陵が植林・築造した松並木（防浪林、防潮林）と土盛の堤防（防浪土堤）がある。



撮影：2014年10月5日

# 1910年の海難事故(二月遭難)

- 明治43年(1910年)3月12日、突然の暴風雪により、出漁中の漁船82隻、乗組員1,054人が遭難(溺死者:13人、行方不明者:314人)。

**銚子沖の大椿事**  
 行衛不明船七十餘艘  
 人員八百餘名あり  
 十二日海上郡銚子町川口の沖に颶風起り其  
 船出漁中なりし漁船八十餘艘が激浪のため  
 難破し或ひは行衛不明となりし、大  
 慘事あり、川口沖は音に聞けし騒所にして  
 颶風に逢ひし八十餘艘の漁船は激浪に翻奔  
 せし中七十四艘は行衛不明となり五艘は全  
 く沈没し残餘は卒く港口に漕戻りたる上  
 り大騒ぎとなり目下國地にては其救助の方  
 出、疾く奔走中なり右漁船は銚子町の分四  
 五十艘、他は茨城縣及び九十九里沿岸より  
 出漁したるものにして十艘の乗組十四五名  
 なりとの事ありしか夕刻に至り更に詳細に  
 取調べたる所銚子町より出漁せるは流網船  
 十五六人乗、卅二艘猪牙船三人乗り十四艘  
 同郡高神村字外川よりは漁師流網十五六人  
 乗四艘同郡飯岡村よりは同く十五六人乗  
 流網二十九艘都合八十九艘にして流網船は  
 銚子猪牙船は網漁に専事し居たり  
 遭難の當時、斯くて當日午前十時頃  
 風雪、習して出漁したる、險絶する天候は  
 いやが上に險惡となり吹き狂ふ暴風は恰か  
 も**悪魔の叫**ふが如く吹雪は縦横並  
 に飛び舞ふて咫尺も辨せざる有様となり出  
 漁船の多くは到底之を防がん術もなく歸港  
 せんとしたるも其餘船は十一時頃よりは  
 風雪愈々烈しくなり遂に**合計八十**  
**九艘**之に乘り込める**船員八百**  
**餘名**は行衛不明となり残餘は  
 命からく港口に漕ぎ戻りたり

(新総房 明治43年3月15日)

# 二月遭難の供養碑



(溺死者:13人、行方不明者:314人)

# 濱口吉兵衛(1868～1940)

- **ヒゲタ醤油**の社長、銚子遊覧鉄道(銚子電鉄の前身)の社長
- 海難事故の遺族からの声を受け、**銚子漁港整備**を決意→**衆議院議員**に当選



- 銚子漁港の**水揚げ量**は9年連続**全国1位**



濱口吉兵衛君

濱口吉右衛門と濱口吉兵衛、  
『実業の世界』、1912より

# 「井戸へい」か「漁民の命」か

- 浜の人びとは…吉兵衛に国会議員になることをたのんでいたのであった。吉兵衛はなかなか決心がつかなかった。吉兵衛が経営する工場には千人もの人びとが働いていた。もし吉兵衛が国会議員になって「井戸へい」になったら、この人たちとその家族は路頭に迷うことになる。「井戸へい」か「漁民の命」か？…………。(中略)「そうだ、漁民たちは危険を覚悟して漁に出て行くのだ。この人たちを見捨ててはならない。私だけが危険から逃げまわってはいだめだ」

川村 優監修：『千葉県を築いた人びと』

# 1960年チリ地震津波

- 地震発生から約22時間半後の5月24日未明に三陸海岸沿岸を中心に最大で6mの津波が襲来し、全国で死者119人(千葉県銚子市:2人)、行方不明20人の被害を生じた。
  - 岩手県田老町(現・宮古市田老)では、1958年に高さ約10mの防潮堤(総延長2.4km)が完成していたため、死者0人。
- ※2011年東北地方太平洋沖地震では防潮堤が500mにわたり倒壊したため、田老地区の住民(約4千人)のうち死者・行方不明者は200人以上。

# 1960年チリ地震津波の外川漁港



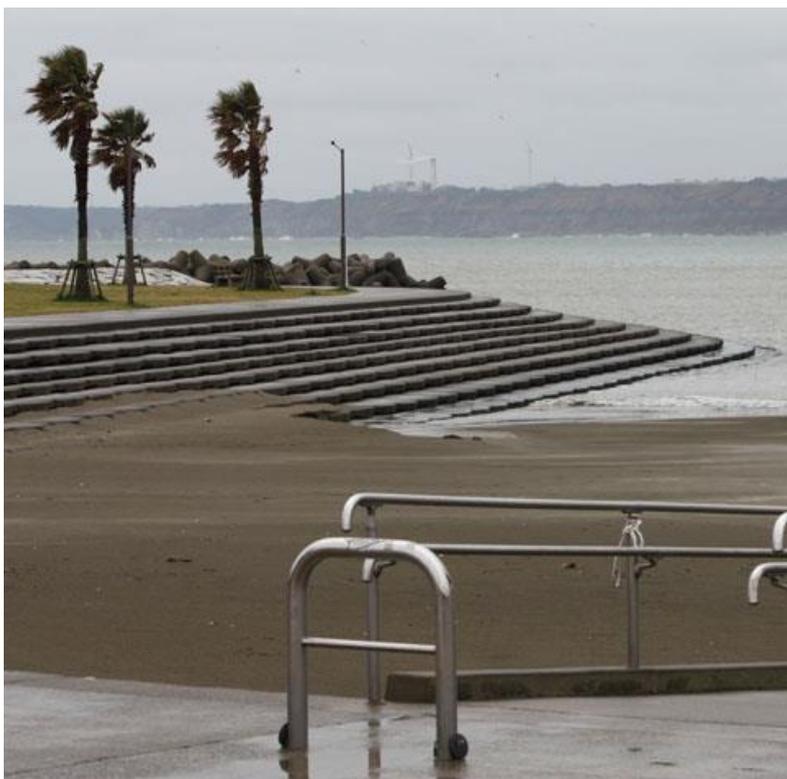
# 1971年(昭和46年)台風25号

- 最大瞬間風速: 49m/秒(銚子市)、降水量(9月6~8日): 559mm(勝浦市)、371mm(銚子市)
- がけ崩れ: 7,760カ所
- 死者: 56人、負傷者: 441人、全壊: 7,629世帯、半壊: 4,529世帯、床上浸水: 7,990世帯



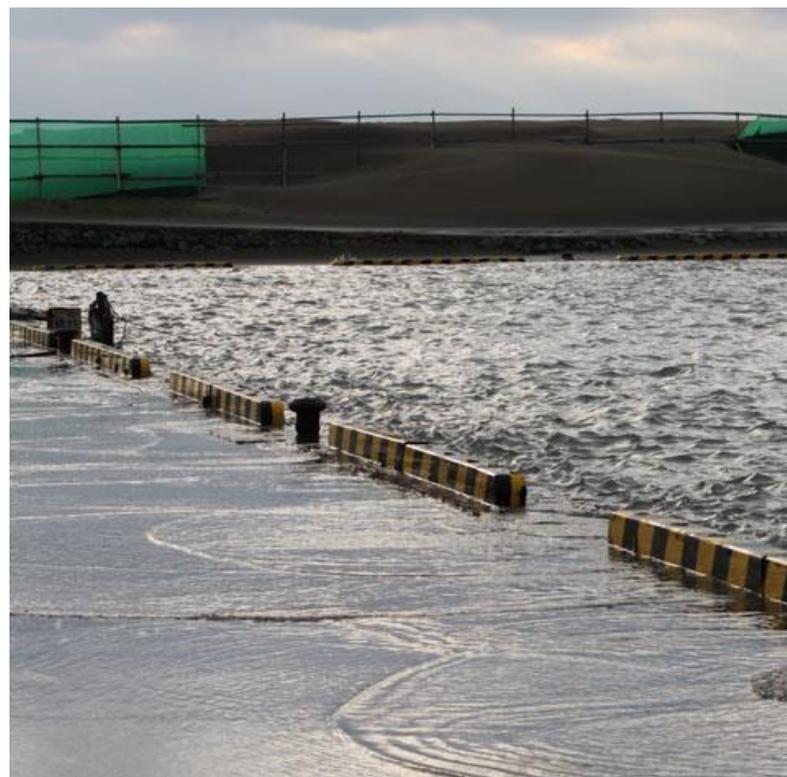


# 2010年チリ地震津波(1)



銚子マリーナ海水浴場  
(マリーナキャンパス付近)

# 2010年チリ地震津波(2)



犬若漁港  
(本部キャンパス前)

# 2011年 東北地方太平洋沖地震 (東日本大震災)



**凡例**

- 浸水範囲 (Red box)
- 撮影範囲 (White box)

宮城県を旅行中に被災

**旭市**

【人的被害】

- ・死者: 13人
- ・行方不明: 2人

【住家被害】

- ・全壊: 334棟
- ・半壊: 905棟
- ・床上浸水: 669棟
- ・床下浸水: 259棟

**鉾子市**

【人的被害】

- ・死者: 0人
- ・行方不明: 1人

【住家被害】

- ・全壊: 23棟
- ・半壊: 94棟
- ・床上浸水: 10棟
- ・床下浸水: 2棟

# 千葉科学大学の浸水状況



# 本部キャンパスの被害状況



撮影:2011年3月13日

# マリーナキャンパスの被害状況



撮影:2011年3月13日

# ダークツーリズム in 銚子ジオパーク

防災(非日常)  
×  
観光(日常)



**外川漁港**

紀州出身の崎山治郎右衛門は、1656年に銚子に来て、2年後の1658年から外川浦で築港を開始するとともに、暮暮目録のまちづくりを行い、外川のまちには「外川千軒大繁盛」と言われるほどに栄えました。しかし、その後むかしは家が数千軒あった漁場であるが、今から七・八十年前に、津波のため、家を潰されてなくなってしまったのだが、現在ではまた、家が数多く出来て大漁場となったとの記述が『利根川図志』(1855年)に残っていることから、江戸時代以降に津波によって大きな被害を受けたようです。近年では、1900年5月24日未明に予り地震津波が太平洋沿岸を襲い、外川漁港でも犠牲者が出ています。このときの津波は、「遠地津波」に分類されるタイプで日本から遠く離れた南米チリで発生した地震による津波が約23時間をかけて押し寄せました。

**屏風ヶ浦**

銚子市犬岩から旭市刑部岬まで続く、長さ10km、高さ約20～60mの断崖絶壁の海食崖(海の波によって削られた崖)です。イギリスとフランスの間にあるドーバー海峡のホワイトクリフに似ていることから、「東洋のドーバー」とも呼ばれ、2012年9月に日本ジオパークとして認定された「銚子ジオパーク」を代表するジオサイトの一つです。また、2016年3月、「屏風ヶ浦」は国の名勝および天然記念物に指定されました。その一方で、海の波により年間数10cmの速度で侵食されています。現在は、海岸に消波ブロックなどを設置して侵食の防止を図っています。

**千 渡海神社**

709年に東海鎮護と銚子半島の鎮めとして、外川浦日和(外川町の大杉神社の付近)に創建されました。後年、津波で被害を受けて、976年に現在の場所(海拔40m)に高地移転したと言われています。その後、銚子高神の高見の浦一帯で大津波が起こったと言われており、この天災地災の様子が海神の祭りとなって遠く京都まで伝えられました。そこで、瀬河天皇は、この災害を鎮めるために勅命を發し、1102年に銚子への御神幸祭(銚子天神幸祭)が始められました。神幸祭は、1110年まで毎年行われていたようですが、その後20年に一度行われ、現在まで約900年も続いています。渡海神社は、神幸祭での外川浜への渡御の前日の田沼治土となっています。神社境内の森は「瀬相林」と呼ばれています。瀬相林とは、埋地から森林が形成される過程での産後期の状態に置いた森林のことです。このように森林が出来上がるには、数百年から千年かかると言われており、千葉県の天然記念物に指定されています。

海水浴場で賑わう銚子マリーナ

千葉科学大学「藤本研究室」のサイト  
(<https://bosai-choshi.jimdo.com/>)  
からダウンロードできます。

## 2. 銚子の「現在」の自然災害

- 令和元年台風15号(令和元年房総半島台風)
- 令和元年台風19号(令和元年東日本台風)
- 令和元年10月25日大雨



【台風15号】  
南房総市 中学校体育館



【台風19号】  
銚子市 市街地冠水



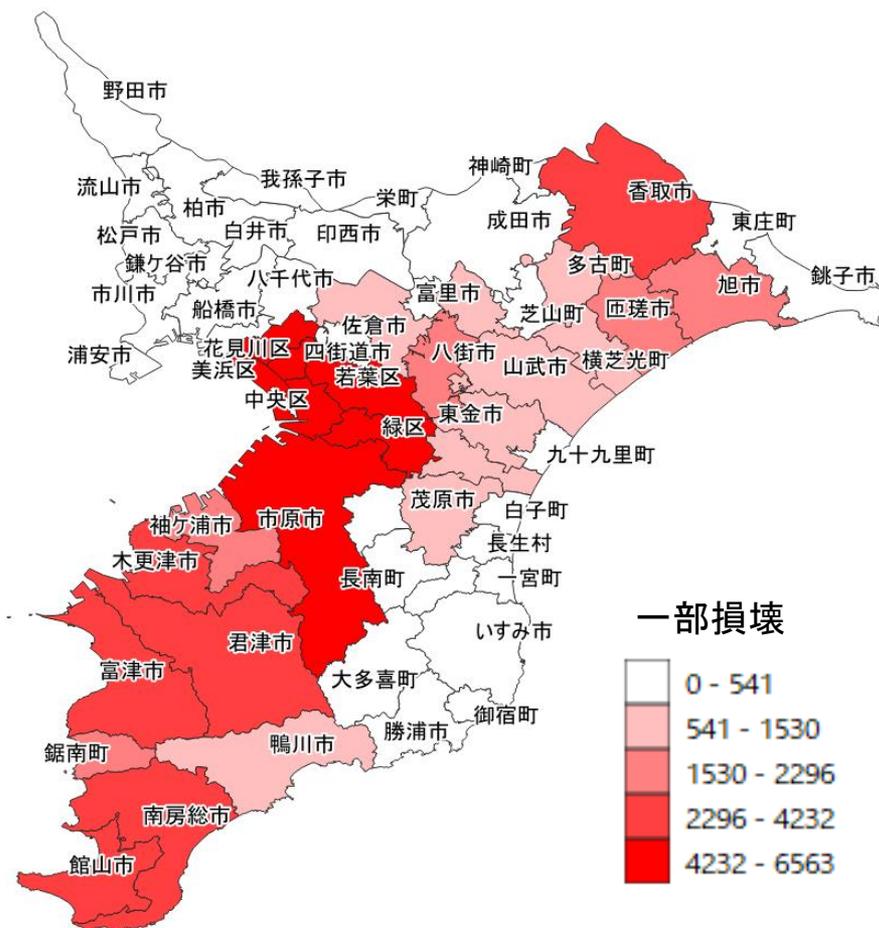
【10月25日大雨】  
茂原市 小学校浸水



【10月25日大雨】  
佐倉市 住宅地 がけ崩れ

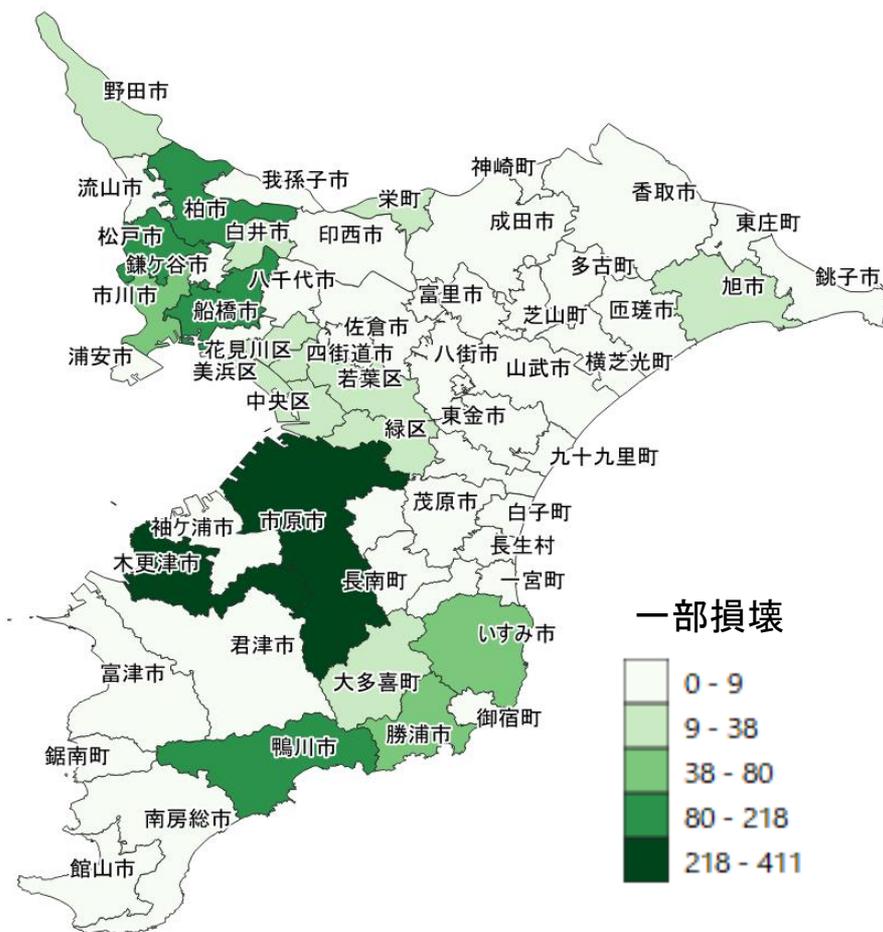
# 令和元年台風15号(9月9日)

- 人的被害 死者0人、重傷者7人、軽傷者75人
- 建物被害 全壊294棟、半壊3,274棟、一部損壊56,543棟、床上浸水37棟、床下浸水65棟
- 暴風による広域・多数の建物被害、送電線鉄塔の倒壊(君津市)、ゴルフ練習場鉄柱の倒壊(市原市)、県内全域で多数の倒木、広域・長期にわたる停電(ピーク時には県内の約64万軒が停電)、首都圏の鉄道の計画運休 など



# 令和元年台風19号(10月12日)

- 人的被害 死者1人、重傷者1人、軽傷者23人
- 建物被害 全壊14棟、半壊65棟、一部損壊1,467棟、床上浸水25棟、床下浸水69棟
- 竜巻と推定される突風(風速約55mと推定)により車が横転して男性1人が死亡(市原市)、利根川の増水により最下流の銚子市において浸水被害、亀山ダム(君津市)と高滝ダム(市原市)から緊急放流の可能性があったが、実施されず など



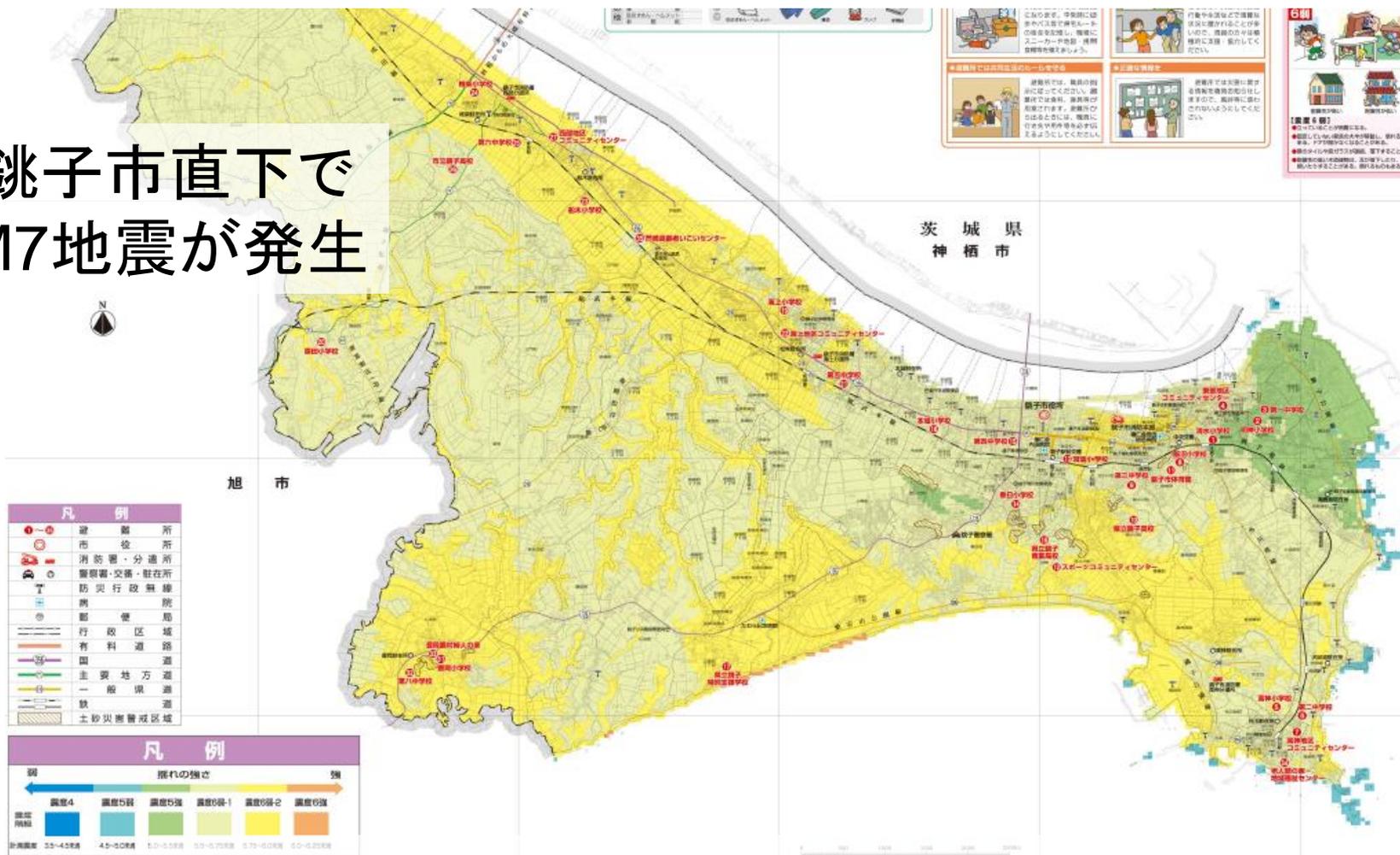


### 3. 銚子の「将来」の自然災害

- 地震 銚子市
- 津波 銚子市、国土交通省
- 洪水 銚子市、国土交通省
- 土砂災害 千葉県

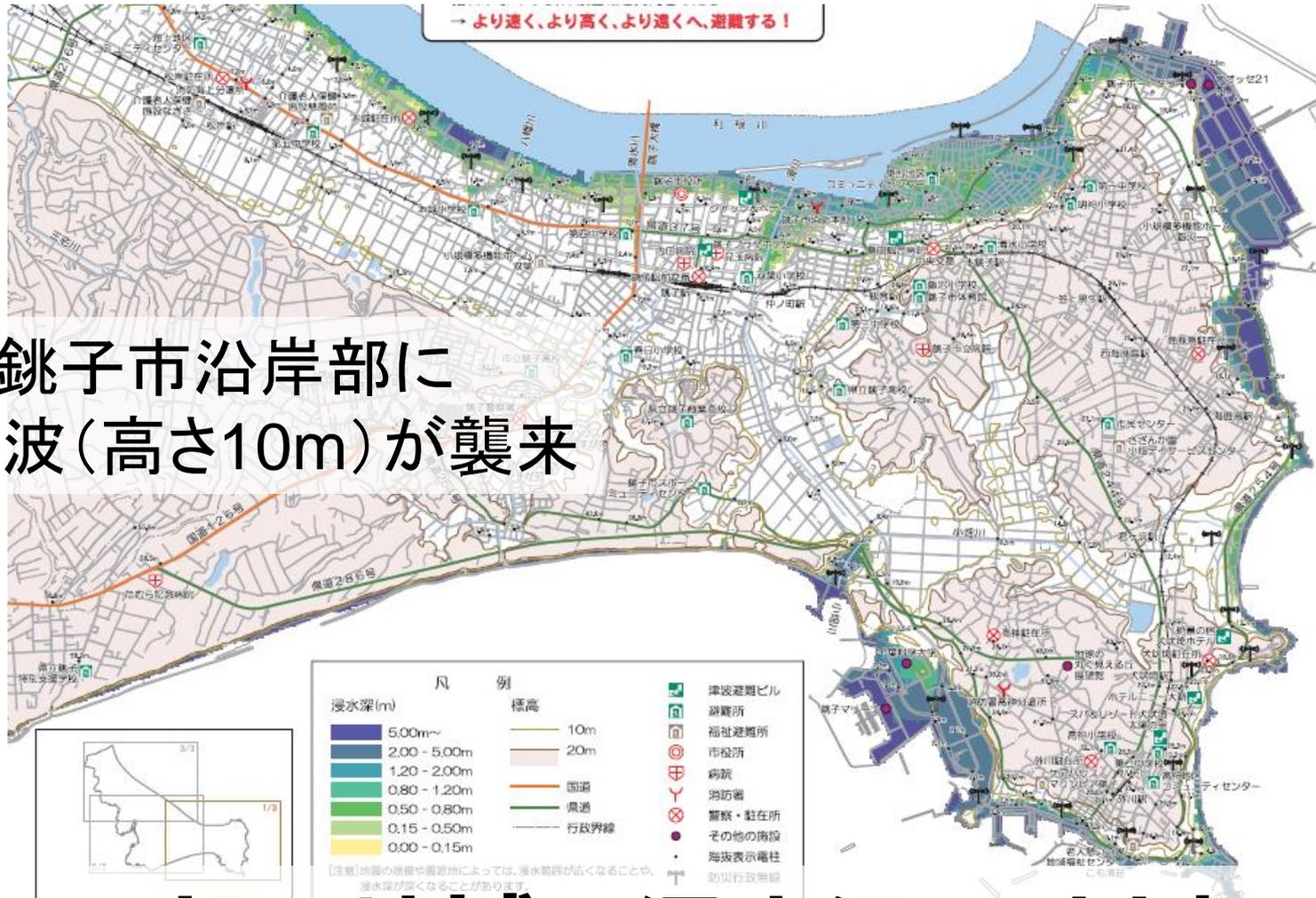
# 地震ハザードマップ

銚子市直下で  
M7地震が発生



市内全域で震度6弱以上

# 津波ハザードマップ(銚子市)

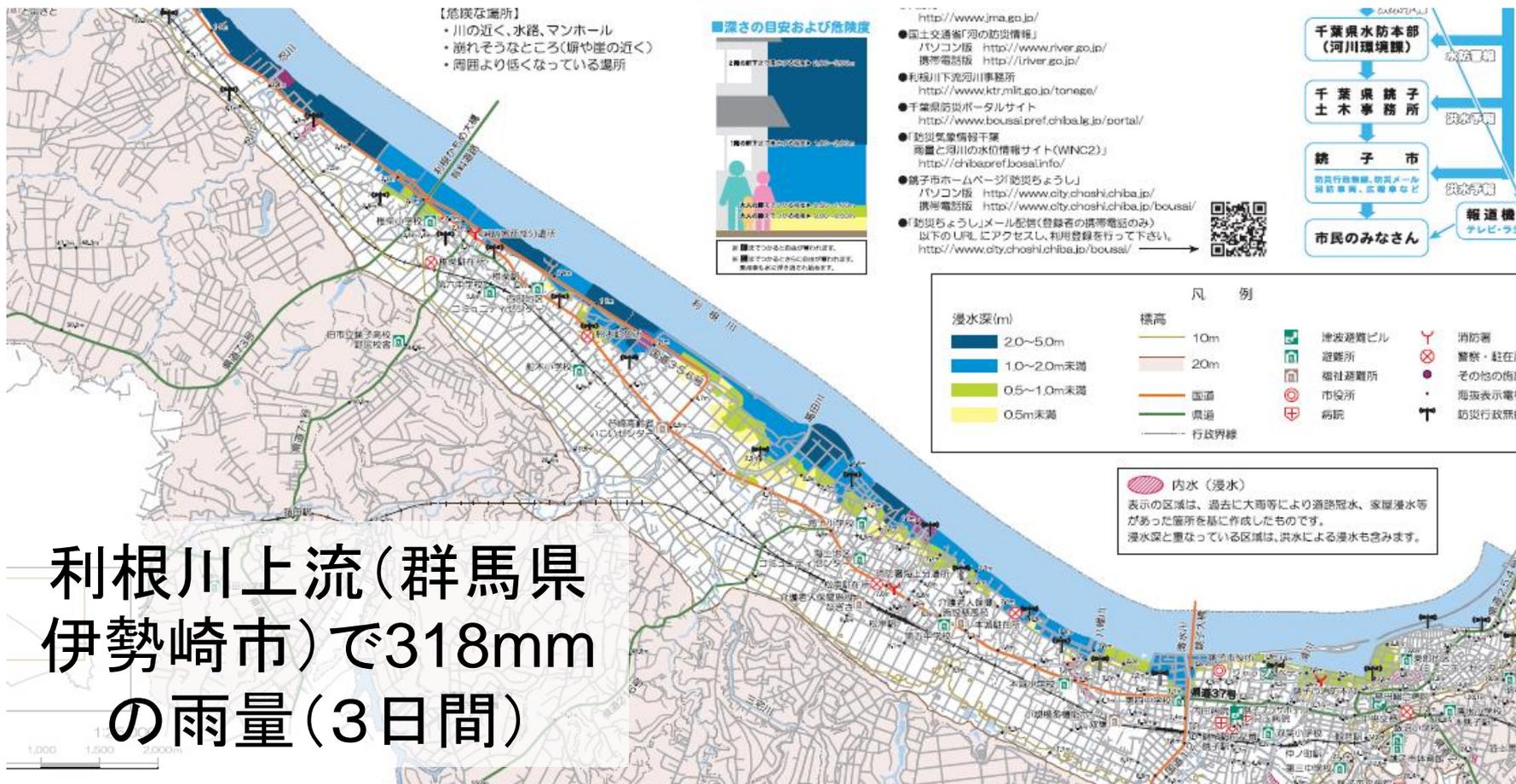


## 一部の地域で浸水深5m以上

# 津波浸水想定図(千葉県)

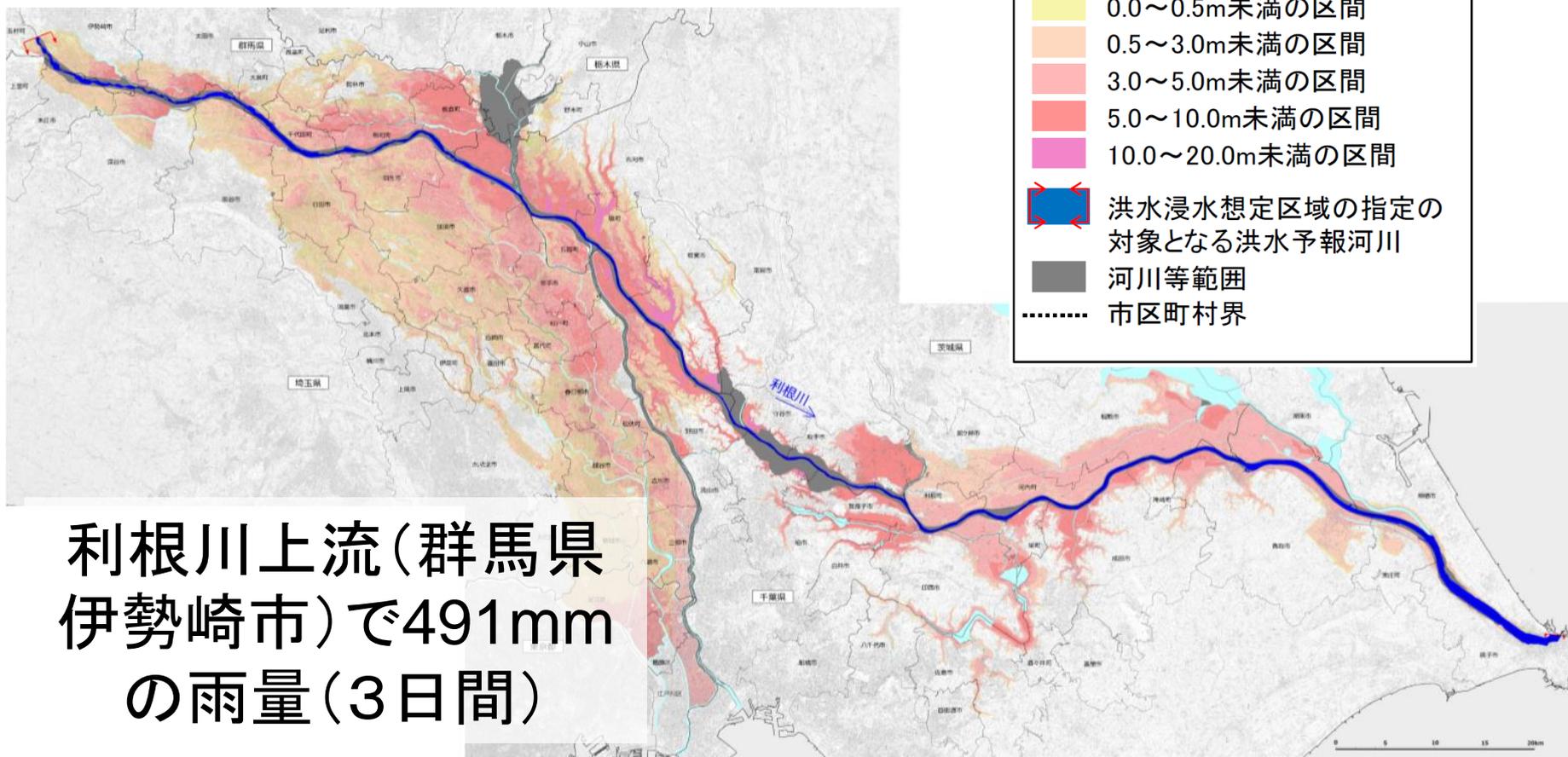


# 洪水ハザードマップ(銚子市)

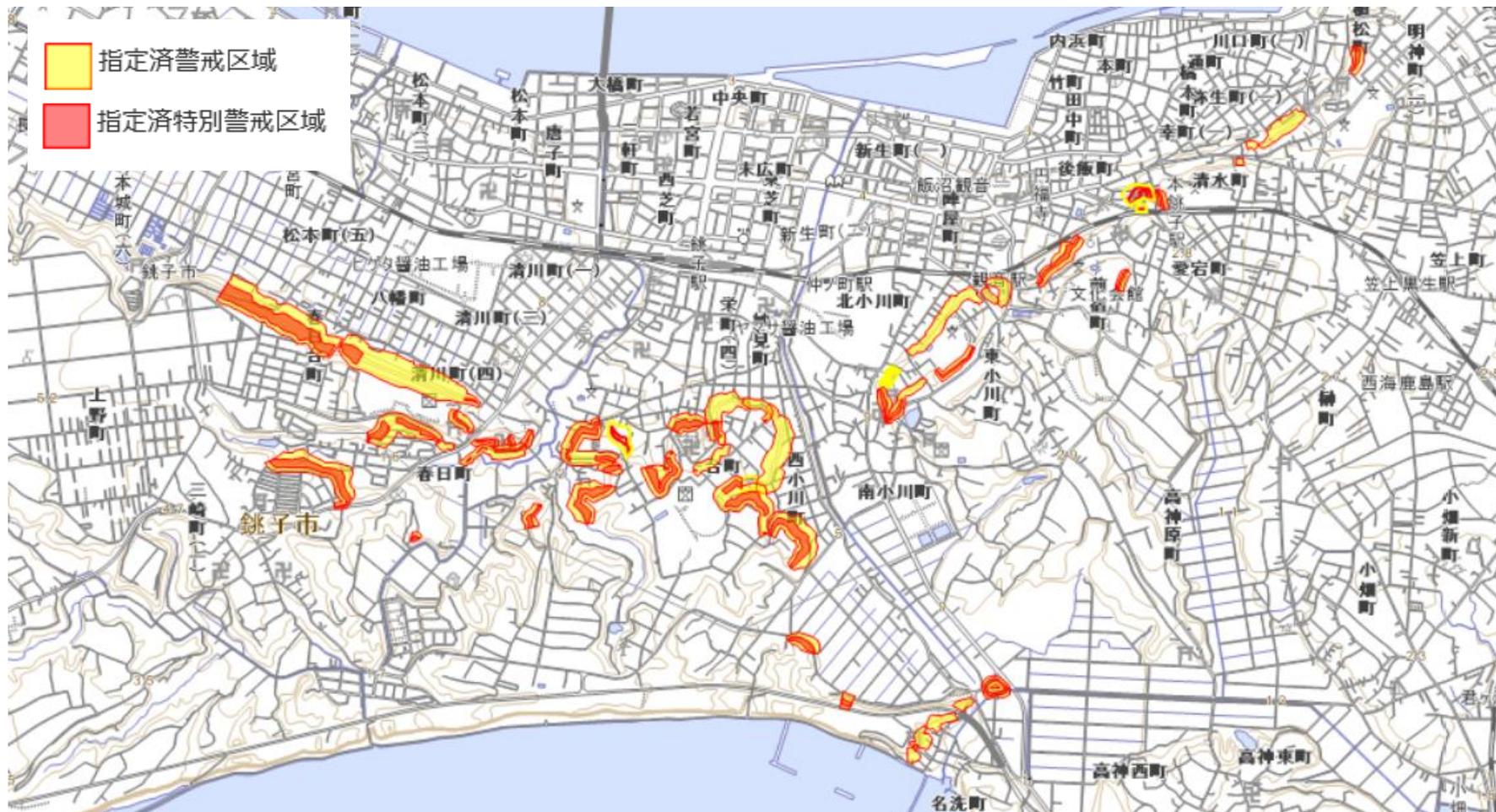


**浸水域は利根川沿岸に限定**

# 利根川洪水浸水想定区域図 (国交省)



# 土砂災害警戒区域(千葉県)



# 平成30年7月豪雨の教訓

## 1.避難に対する基本姿勢

### <現状>

- 行政は防災対策の充実に不断の努力を続けていくが、地球温暖化に伴う気象状況の激化や行政職員に限られていること等により、突発的に発生する激甚な災害への行政主導のハード対策・ソフト対策に限界
- 防災対策を今後も維持・向上するため、国民全体で共通理解のもと、住民主体の防災対策に転換していく必要

### <目指すべき社会>

#### 住民 「自らの命は自らが守る」意識を持つ

- 平時より、災害リスクや避難行動等について把握する
- 地域の防災リーダーのもと、避難計画の作成や避難訓練等を行い地域の防災力を高める
- 災害時には自らの判断で適切な避難行動をとる

#### 行政 住民が適切な避難行動をとれるよう全力で支援をする

- 平時より、災害リスクのある全ての地域で、あらゆる世代の住民を対象に、継続的に防災教育、避難訓練などを実施し、「自らの命は自らが守る」意識の徹底や地域の災害リスクととるべき避難行動等の周知をする
- 災害時には、避難行動が容易にとれるよう、防災情報をわかりやすく提供する

平成30年7月豪雨を踏まえた水害・土砂災害からの避難のあり方について(報告)より

# 濱口梧陵の言葉

## ■「唯我独尊の覚悟を定め、…」

(「私がやるしかないと覚悟を決め、…」)

嘉永七年海嘯の実況(濱口梧陵手記)より



**自助** > 共助 > 公助

# まとめ

## ■ ビスマルク

「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」



- 愚者は経験（最近の災害だけ）に学ぶ。  
賢者は歴史（過去の災害）に学び、そして、将来の災害に**自助**（> 共助 > 公助）で備える。